

# 第 1 回 第 2 次福井市都市交通戦略協議会

## 会 議 録 ( 要 約 )

開催日時 令和 2 年 7 月 3 日 ( 金 ) 午後 1 時 30 分から午後 3 時 15 分まで

開催場所 福井市企業局 5 階 大ホール

1. 開会
2. 委員紹介
3. 挨拶
4. 協議事項

会長

---

資料については事前に目を通して頂いていると思うので、一括して事務局から説明していただく。よろしく願います。

事務局

---

資料説明【資料 1～資料 5】(省略)

最後に、2 つのアンケート調査を実施することを報告させていただく。1 つ目は公共交通に関する総合的な市民アンケートとして、日常生活における現在の交通環境に関する評価、公共交通の利用頻度、各交通機関や P & R、デマンド交通等の認知度、自転車利用、免許返納意向等の内容である。2 つ目は、並行在来線周辺の市民を対象とした利便性向上に関する調査である。

会長

---

どうもありがとうございました。

それでは、資料 2 の「現行都市交通戦略の検証」の検証結果について何か意見や質問等があればよろしく願いたい。

副会長

---

前回の都市交通戦略を策定した時との違いについて、施策パッケージの中でにぎわいづくりがどの程度あったのか、駅前のにぎわいづくりの成果として、あるいは状況として何かデータ的なものは入れられないか。

## 事務局

---

現行戦略の施策パッケージの中で、交通結節の強化でバスを駅前広場に結節したこと、また、福井鉄道の駅前線を約 150m 延伸し駅前広場に入れて交通結節機能を高めたことで、にぎわい創出されたと考えている。具体的な数値は手元にはないが、入れていきたいと思う。

交通結節機能とにぎわいとはなかなか繋がりにくいですが、西口駅前広場と西口再開発のハピリンと同時に施工しながら、にぎわい創出に努めてきた経緯がある。その中で、中心市街地の歩行者数、自転車の交通量も確実に増えてきている。また、ここ数年の地価が継続して上昇している。

このようなことからにぎわいを表現したい。次回会議には提示させていただく。

## 会長

---

データのなもの、例えば歩行者自転車等の交通量など評価検討に関する数字を追加すると良いと思う。

他にないか。質問でも良い。

## 委員

---

19 ページの目標数値 人口カバー率について、現行策定時から 5% 向上している。おそらくバス路線等が拡充したためと思われるが、4 地域のうちどの部分が増えたのか分かるのであれば教えて欲しい。

## 事務局

---

カバー率が上がった箇所は、今まで空白地だった区域に地域コミュニティバスを走行させることにより上がったものと思われる。

次回、何らかの形で提示させてもらう。

## 会長

---

他にないか。

引き続き、資料 3、4、5 について何かあるか。

福井市のまちづくり、取り巻く交通環境の変化と課題、これらを含めながら中心的議題となる第 2 次都市交通戦略の方向性の素案を示している。

この第 2 次都市交通戦略の方向性について、現段階での意見や質問があればいただきたい。

## 委員

---

まちづくり福井ではすまいるバスを運行している。当初は、買物バスということで買物を目的とした運行を行っていたが、最近は生活路線的な役割としての使われ方が多くなってきている。

すまいるバスを含めて、市内中心部のバス路線の協議をいただくと有難いと思う。

## 委員

---

今のすまいるバスと関連してだが、京福バスとしては市内中心部で運行しているその他のバス路線についても、地域区分や運行回数、運賃等の問題を含めた中で考えていけないかと思う。あわせてよろしくお願ひしたい。

## 会長

---

都市交通戦略にあわせて、路線バス見直しについてすまいるバスを含めての提案だと思う。

この提案については、協議会の中で個別に議論するのは難しい。もう少し内容を詰めての議論が必要だと思われる。このあたりはいかがか。

## 事務局

---

本協議会の設置要綱第3条第5項に「会長は必要に応じて専門部会を置くことができる」と書かれている。より細かな議論をするため、部会を設置して関係者による細かな議論を深めていってはどうかと思う。

## 会長

---

皆さんの異議が無ければ、必要だということで私の方で専門部会を設置することで良いか。

## 委員全員

---

異議なし

## 会長

---

専門部会の場で、具体的な検討を進めていくこととする。  
他にないか。

## 委員

---

今後10年間で一番大きいインパクトは北陸新幹線福井開業だと思う。

この都市交通戦略については、観光振興や新幹線開業アクションプランでの議論だと思うが、方向性の案を見ると生活者視点で書かれているイメージが大きい。もう少し来街者視点、福井に来た方が便利にするためにはどうしたら良いか、そういった視点での交通のあり方について、MaaSやキャッシュレスも一部あるのかもしれないが、今だから追加すべきではないか。

## 事務局

---

交通結節機能の強化、待合機能やフィーダー路線の拡充など、2次交通の確保や利便性の向上については、地域の住民だけではなく、観光で福井を訪ねた方にとっても利便性のあるものにしていかなければならないと思う。MaaSやICカード、キャッシュレスを含めて協議していきたいと考えている。

## 副会長

---

交流人口の拡大の議論を入れた方が良い気がする。それぞれの地域の機能と役割を整理しながら進める定住人口の全域交通ネットワークと、交流人口を意識するネットワーク、2層のネットワークという視点があると良い。重複するところもあるが、もう少し強調して交流人口を引き出すためのネットワークの視点があると良い。

## 事務局

---

今の視点について、次回の議論の中に加えていきたい。

## 会長

---

これは、スライド49ページの施策方針の であると思う。ここでは、北陸新幹線や観光ビジネス需要等が書かれているが、イメージ的に分かるようなものがあると良い。

次回この点も含めて議論していきたい。

他にないか。

## 委員

---

駅前の短絡線についてお聞きしたい。これまで短絡線の整備が出ていたと思うが、これがどうなったのか知りたい。最近田原町駅が、駅からフェニックスプラザまで屋根が付き便利になって利用者が増えてきた。一方、西武周辺に行くと駅前まで歩かなければならない。電車が行ってしまうと、待つか市役所前まで行くかの2択になってしまう。もう少し利便性を高めて欲しいという意見が市民の間から出ている。この話が白紙に戻ってしまったのか、まだ議論の余地があるのか知りたいと思う。

## 事務局

---

大変貴重なご指摘だと思う。

前回の交通戦略の協議の中で、短絡線という言葉が出ている。ご存知のとおり、スイッチバックをして駅前に入ってきているという不便がある。これを解消するためこのような計画を持っていた。残念ながらこの期間でこれを達成することができなかったが、やはりこの第2次都市交通戦略のなかで、1つの位置付けとして皆さんの意見をいただきたい。利便性を上げるためには必要であるが、周辺でいろいろな計画が動いており、この点においても十分精査しながら意見をいただきたいと思っている。

## 会長

---

今再開発が進んでいる最中である。南側の再開発エリアとの関係性がものすごく影響する話であり、今後10年間の間に検討が必要となる。

他にないか。

## 委員

---

49 ページ施策方針の 安全で快適に移動できる空間づくりについて、主に公共交通の施策を提案されているが、バスの定時性(信頼性)確保は、やはり交通渋滞の問題は避けて通れないと考えている。我々は交通渋滞対策の施策にいろいろと取り組んでいるが、福井市内の至る所で朝夕のラッシュ時間を中心に交通渋滞が発生している。このような点が公共交通の円滑な移動を阻害していると考えている。幹線道路の渋滞対策や公共交通の施策とあわせて、主に環状道路を整備するような取組みも全国各地で行われているので、道路の渋滞対策も 1 つの視点として施策に盛り込めないかと思っている。

## 事務局

---

資料 58 ページで路線バスの定時性確保で書かせていただいているが、今の視点は重要であるので次回協議したいと思う。

## 会長

---

鉄道やバスの公共交通もセットで考える必要があるとの指摘だと思う。マイカー交通を含めてどうするのかを一方で考えていく必要もある。

他にないか。

## 委員

---

全体的に良くまとまっていると思い拝見させていただいた。その中で、資料 4 の福井市を取り巻く交通環境の変化についていくつかあげているが、10 年計画を考えるとバスやタクシー、鉄道などの供給者側(事業者側)からの視点もあると良いと思った。

資料 49 ページの ICT 化の推進について、2009 年はドコモでいうと FOMA(フォーマ)の時代であり、2015 年に 4G サービスの開始、今年から 5G 元年と呼ばれているようにその進化は激しい。この ICT 化の推進とは、実際に交通事業者にどのくらい導入できるかわからないが、今後 10 年の計画だと結構大きな要素だと思っている。その観点で見ると、ICT 化から施策パッケージと結ばれているのが、シームレス化だけになっている。利便性向上や市中心部のバス路線見直し、フィーダー路線のオンデマンドなど、いろいろ関わるところは多いと思う。

具体的な施策は次回出されると思うが、49 ページ緑色の「拠点への機能誘導による地域力の向上」にある(3)乗継利便性の向上については、いろんなものを結ぶ概念だと思っている。例えば(1)交通結節機能、待合機能の拡充、(2)並行在来線の利便性向上は(3)乗継利便性の向上の方が大きい概念であるので、パッケージの見出しとしては少し広すぎると思う。

## 事務局

---

1 つ目のバス供給者の視点は、重要な視点だと思う。また、ICT 化の推進は、今後いろいろな要素が出てくると思うので、協議会で様々な意見をいただきたい。

## 会長

---

今日は資料を洗い出して次回に反映させることが一番の狙いであるので、気が付いた点など忌憚のない意見をいただきたい。

他にないか。

## 副会長

---

「(2)地域拠点に求められる都市機能、生活サービス機能の誘導等」というのは、どのように理解すれば良いのか。どういうことをやろうとしているのか分かりづらい。

## 事務局

---

拠点については、今ある施設を拡充することを考えている。新たに公共が作ることは財源的にも難しい。そこに公共交通が必要であれば、フィーダー的なものを回すことは考えられる。

にぎわい交流拠点として福井市の中心市街地がある。そこへ様々な都市機能を集約していくことを先ほど話している。郊外では全ての機能がある拠点施設はない状況である。従来から考えている、例えば交通の乗継と民間施設や既存施設をあわせて買い物などができ、またそれ以上の生活に必要なものについては駅前に出てきていただくような地域拠点のイメージである。

前回の都市交通戦略でも、地域拠点として商業施設等を位置づけているので、その検証と新たな考え方を協議できればと考えている。当時よりも人口減少と高齢化が進んでおり、そこに行けば全てが簡潔するような施設はできないので、あくまでそこに行けば1つの目的は果たせるが、それ以上については駅前の中心に来ていただくような、まちづくりと交通戦略の1つの考え方である。

生活機能については、それぞれの場所によって違うので、次回提案して意見をいただきたいと思っている。

## 副会長

---

今後10年でそれぞれの地域をどのように考えていくのか、その辺りが見えてからということになる。

## 委員

---

資料にある人口や年代等のデータが古いと思う。今現在のデータだと分かりやすい。

## 事務局

---

人口については国勢調査を引用しているが、直近のデータにして分かりやすい資料にする。

## 委員

---

49ページ「持続可能な生活の足の確保」の持続可能とは、いつまでのことなのか。今後10年だと思うが、どのように捉えれば良いのか。

## 事務局

---

PDCA サイクルで進めていく。10 年間保てるレベルで展開していきたいと考えている。

## 副会長

---

今までの考え方は「乗って残そう」というスローガン・取組みが多かったが、今後、人口減やリモートワーク、ネット販売等を考えると、これをメインにしていけるのかと感じている。

「乗って残そう」だけではなく、プラス何かもう1つ必要だと思う。地域で公共交通等の交通資源を維持していくためには何が必要かという視点が必要である。

## 委員

---

タクシー業界であるが、コロナによる外出自粛等により経営が立ち行かない状態である。

公共交通として、生活交通(マイカー)の上の位置付けであり、持続可能な位置づけの中に、タクシーも位置付けてほしい。

## 委員

---

3点申し上げたい。

福井市の今後10年の交通戦略のあり方について、市民の方々に公表して理解いただくことは重要である。そのために、より分かりやすい概念図的なものがあると良いと思う。鉄道軸など、ネットワークがしっかりできて、市民が分かりやすい図があると良い。

ネットワークとまちづくりについて、交通と土地利用の連携の中でまちづくりを進めていくことが分かるような記載があると分かりやすいと思う。

MaaSは全国的に注目されているが、実際に詰めていくと、特に地方都市ではいろんな壁があると思う。採算性が見込めるのか、実現可能性があるのかなどについて、交通事業者を交えて今の段階から具体的な議論ができると良いと感じた。私の経験から、MaaSを導入してみようとする、各交通事業者の間でどのように利益配分するのか、どのようなシステムを誰が作るのかなどが問題になる。

## 事務局

---

都市交通戦略概念図など、市民の方に分かりやすく愛されるような都市交通戦略となるよう公表したいと思う。場合によっては説明にうかがうことも考える必要があると思う。

土地利用の連携については、専門の先生方からいろいろと教えていただきたい。

MaaSについては、是非この協議会で事業者側の意見を聞かせていただきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

## 会長

---

協議会が4回あるなかで、パブリックコメントは考えているのか。

## 事務局

---

パブリックコメントを考えている。

## 委員

---

結構な協議をしなければならない内容、ボリュームがある。

先ほど部会を設けるといことで、我々が関われる内容については、出来る限り細かく頻繁に協議していきたいと思う。折角なので、しっかりとした良いもの、今後反映させられるものを作りたいのでよろしくお願いいたします。

観光との連携や MaaS の話があったが、観光 MaaS と地域交通 MaaS の住み分けについて整理しながら進めていただけると良いと思う。

## 事務局

---

交通事業者側の意見を特に求めたいときには、事務局がうかがう場面が出てくると思うのでよろしくお願いいたします。

## 会長

---

その他はいかがか。

お気付きの点など何かあれば、事務局まで連絡をお願いしたい。

長時間に渡りありがとうございました。

本日いただいた貴重なご意見を反映しながら、次回以降に反映して皆さんにお諮りしたいと思うので、よろしくお願いいたします。

## 事務局

---

会長、ありがとうございました。

長時間の議論、ありがとうございました。

これをもって、第1回協議会を終了させていただきます。